

果樹産地における新規就農者への支援

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

愛東ぶどう・なし産地は、生産者の高齢化や後継者不足に伴い栽培面積が減少し、産地の維持・発展に向け、新規就農者の育成・定着が課題となっています。

そこで、2年前に地元のNPO法人・JA・市・農業委員会・生産者代表・当センターが構成員となって、東近江市愛東・湖東地域新規就農促進協議会（以下、「協議会」という）を設立し、新規就農者の受入体制を整えるとともに、愛東ぶどう生産出荷組合（以下、「組合」という）に技術指導者を設置する等、新規就農者の就農相談から定着に向けた取組を支援してきました。今年度は、（1）受入体制の充実と（2）研修後の新規就農者への栽培技術支援を目的に支援しました。

【普及活動の内容】

（1）受入体制の充実に向けた支援

協議会では、定期的に会議を開催し、就農希望者や新規就農者の状況、空き園地情報（園バンク）等を共有していました。体制の充実を図るため、当センターが関係機関の役割分担の明確化を図り、東近江市全域への拡大を視野に入れた話し合いを誘導しました。

（2）新規就農者への技術支援

果樹栽培開始1～2年の生産者4名への技術支援を行いました。特にぶどう生産者2名は、組合の技術指導者から1年間の技術研修を受けた後に、空き園地を継承されて組合員となり、将来の担い手として期待されています。当センターは、生育期間を通じた栽培管理について、ポイントを中心に技術支援を行いました。



写真 新規就農者へせんだの技術指導

【普及活動の成果】

（1）受入体制の充実に向けた支援

当センターからの提案により、9月から協議会事務局を東近江市役所が担い、関係機関の役割分担が整理され新体制がスタートしました。また、関係機関による就農支援マニュアルも作成でき、今後の支援体制の充実を図ることができました。

（2）新規就農者への技術支援

新規就農者は、先輩生産者から日頃指導を受けていますが、試行錯誤することも多く、そのフォローを行いました。4名の技術力はいずれも着実に向上し、販売額を昨年の3倍近くに伸ばした方もいました。次年度も引き続き技術支援を行います。

◎対象者の意見

2年目となり技術の理解が進んだことを実感する。今後もほ場巡回や技術相談をお願いしたい（新規就農者）。